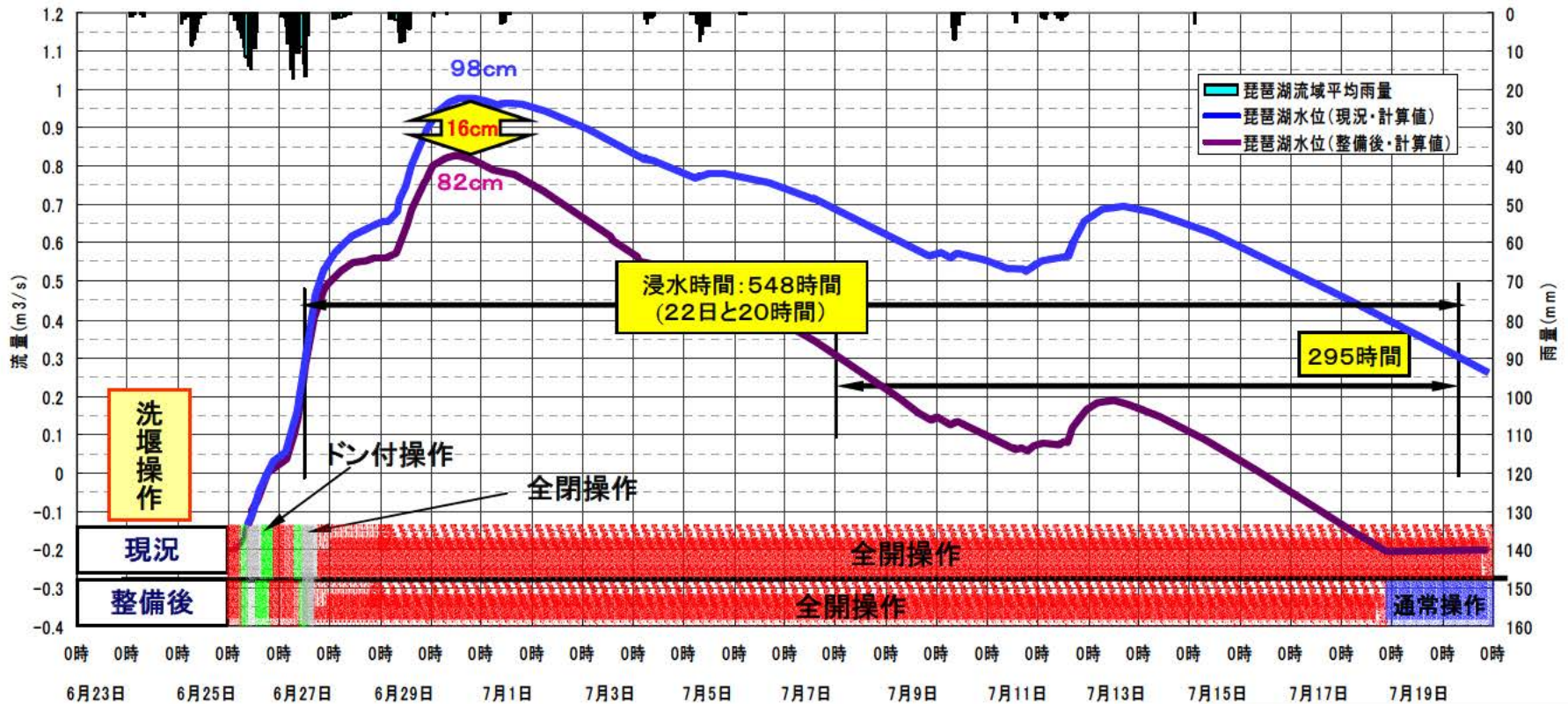


# 瀬田川・宇治川の流下能力1500m<sup>3</sup>/s の効果 (昭和36年6月洪水)

琵琶湖水位ハイドログラフ (昭和36年6月実績降雨によるシミュレーション)

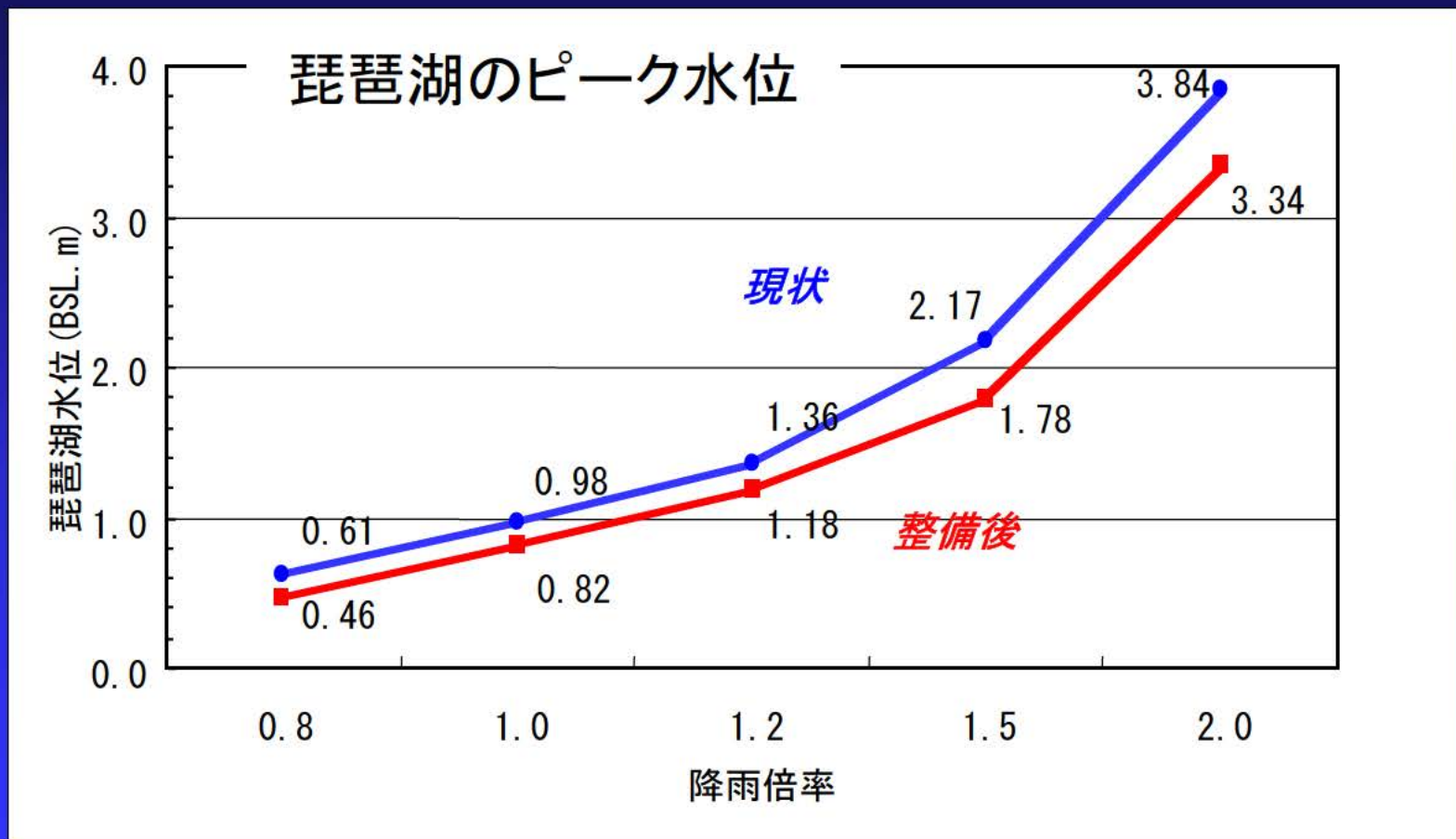


	琵琶湖水位	浸水時間	効果
昭和36年6月洪水現況 被害状況	+98cm	548時間	295時間
天ヶ瀬ダム再開発後 被害状況	+82cm	253時間	

凡 例  
グラフ内の浸水時間は、琵琶湖水位が30cm以上だった時間を計上。

# 瀬田川～宇治川流下能力1500m<sup>3</sup>/s

## の効果 ◆S36. 6月降雨によるシミュレーション



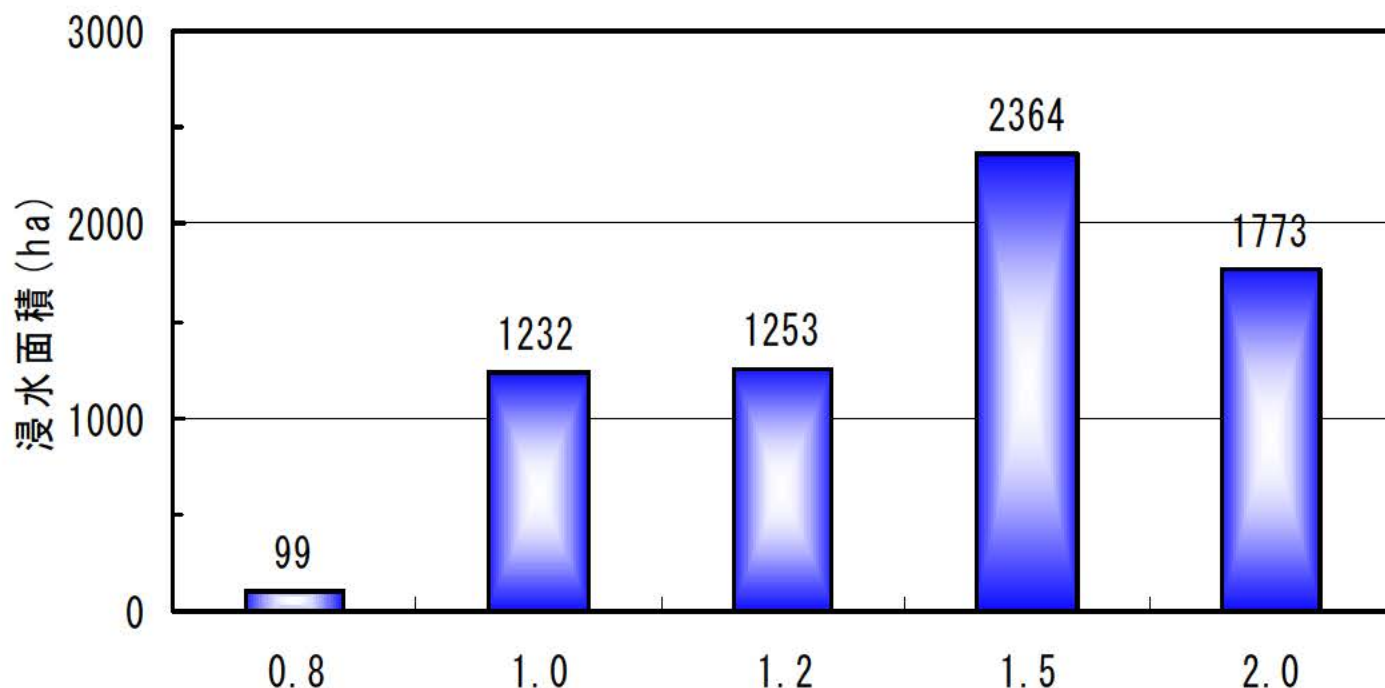
(現況＝宇治川塔の島現況＋天ヶ瀬ダム現況＋瀬田川現況)

(整備後＝宇治川塔の島改修(1500m<sup>3</sup>/s河道)＋天ヶ瀬ダム再開発  
＋瀬田川改修)

# 瀬田川～宇治川流下能力1500m<sup>3</sup>/s

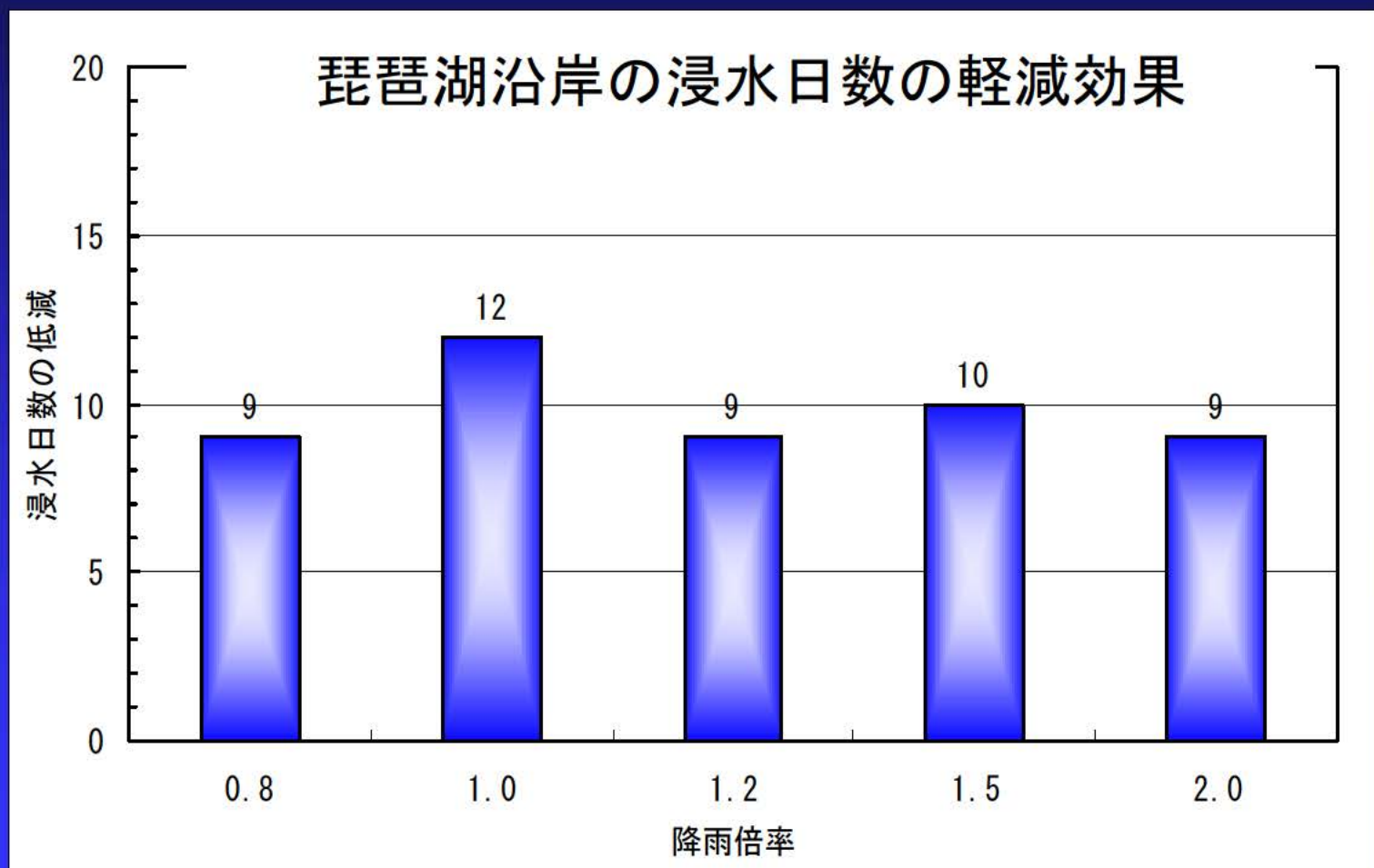
## の効果 ◆S36. 6月降雨によるシミュレーション

琵琶湖沿岸の浸水面積の軽減効果 (ha)



# 瀬田川～宇治川流下能力1500m<sup>3</sup>/s

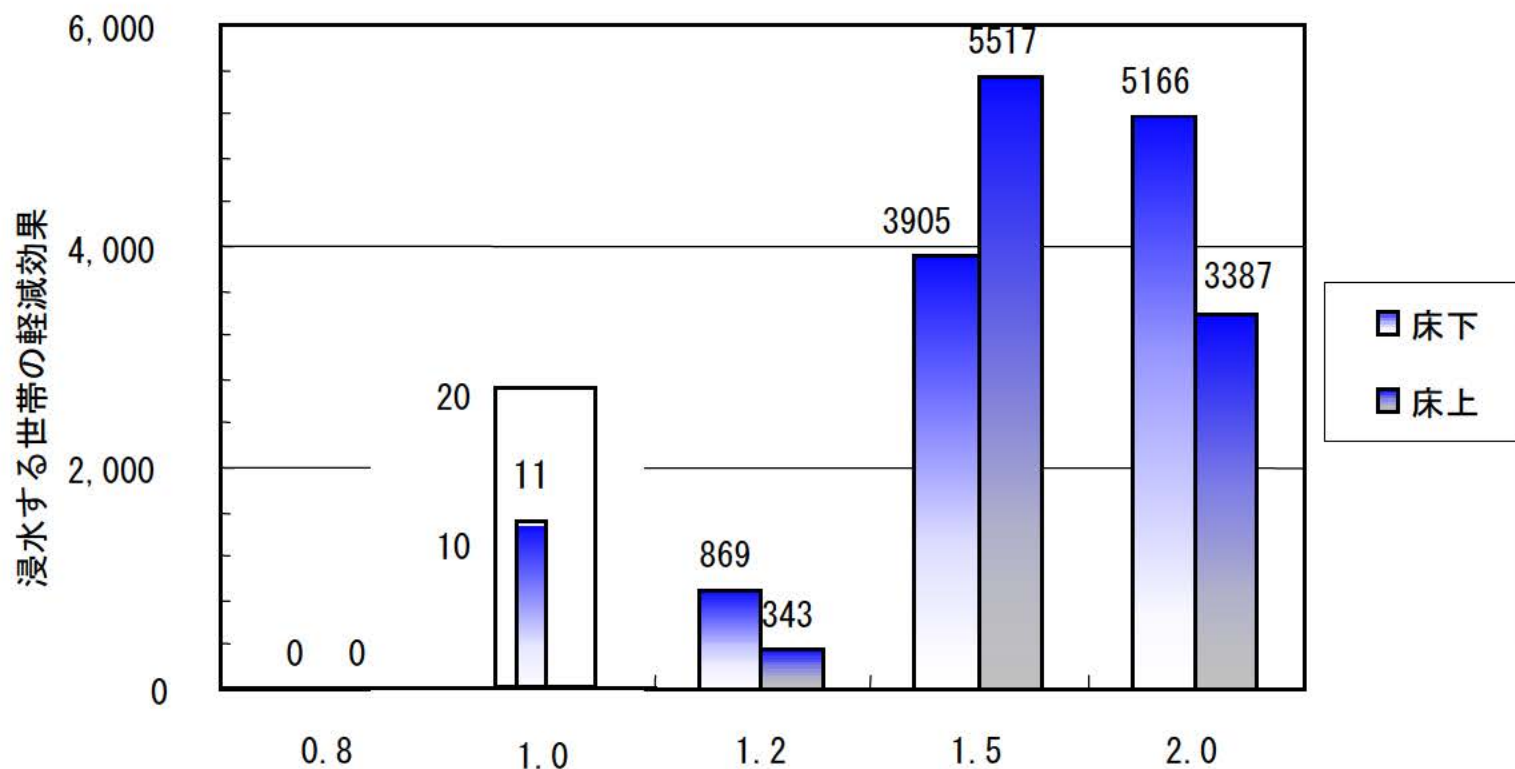
## の効果 ◆S36. 6月降雨によるシミュレーション



# 瀬田川～宇治川流下能力1500m<sup>3</sup>/s

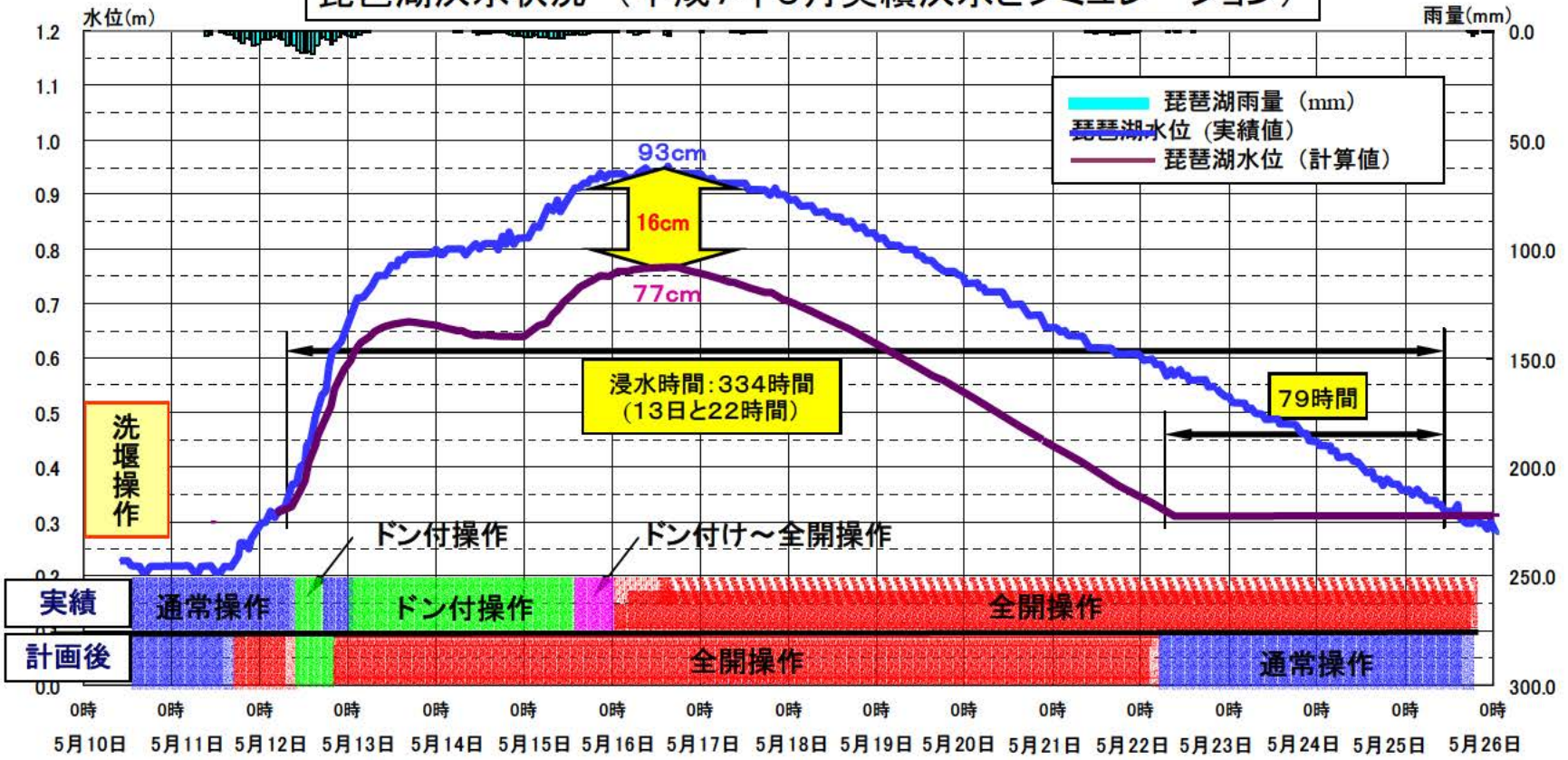
## の効果 ◆S36. 6月降雨によるシミュレーション

現状の資産分布から見た洪水毎の浸水家屋の軽減効果



# 瀬田川・宇治川の流下能力1500m<sup>3</sup>/s の効果（平成7年5月洪水）

琵琶湖洪水状況（平成7年5月実績洪水とシミュレーション）



	琵琶湖水位	浸水時間	効果
平成7年5月洪水 被害状況	+93cm	334時間	79時間
天ヶ瀬ダム再開発後 被害状況	+77cm	255時間	

凡 例  
グラフ内の浸水時間は、琵琶湖水位が30cm以上だった時間を計上。

# 天ヶ瀬ダム of 放流能力の増強

宇治川の流下能力が $1,500\text{m}^3/\text{sec}$ 確保されたとしても、天ヶ瀬ダムの貯水位を満水近くまで高くしないと、 $1,500\text{m}^3/\text{sec}$ が放流出来ません。

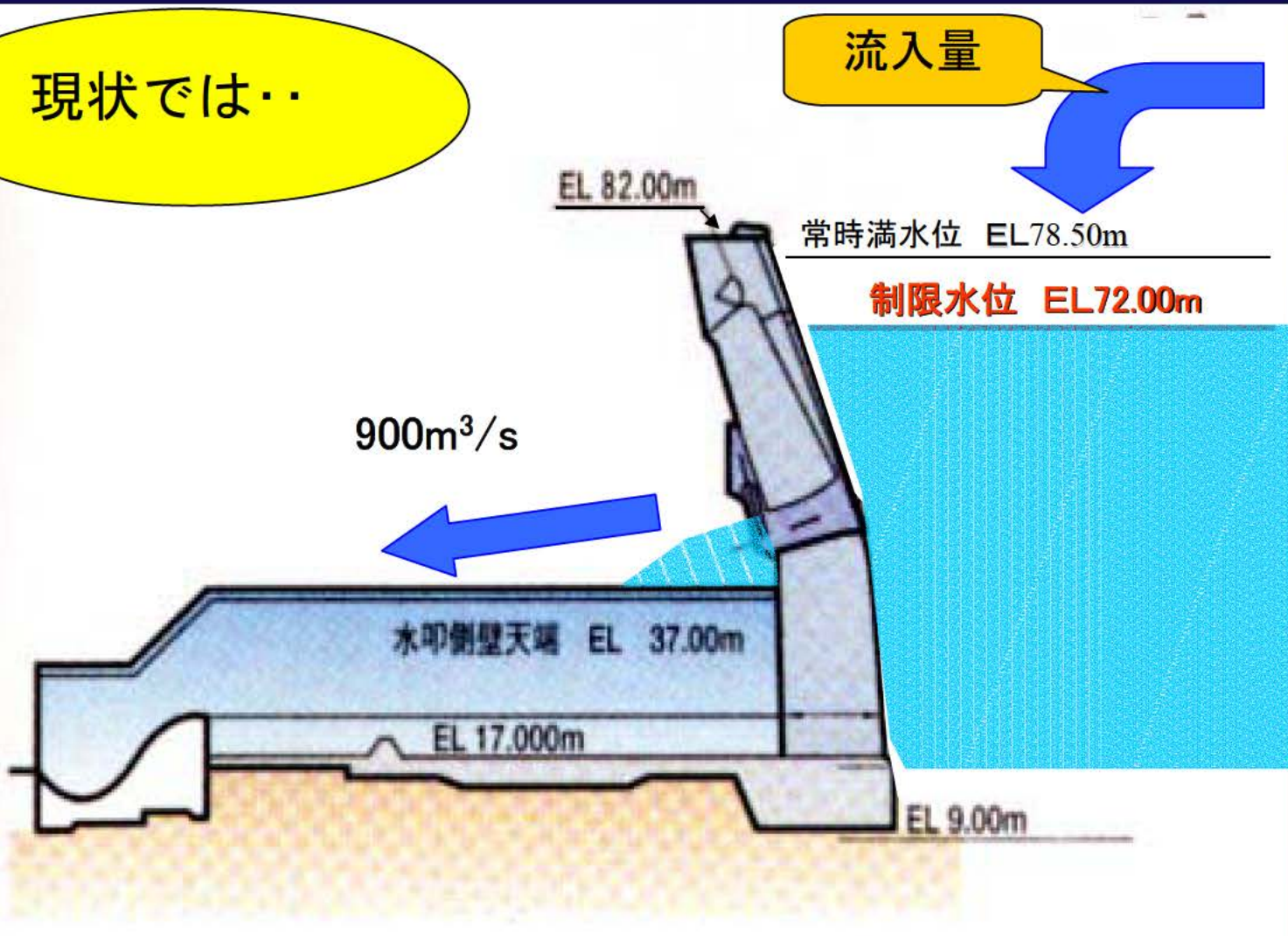
→洪水を貯めるための容量が確保出来ません。

→通常 of 天ヶ瀬ダムの貯水池の運用範囲内でも、天ヶ瀬ダムから $1,500\text{m}^3/\text{s}$ が放流出来るように放流能力UPが必要です。



# 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強

現状では…

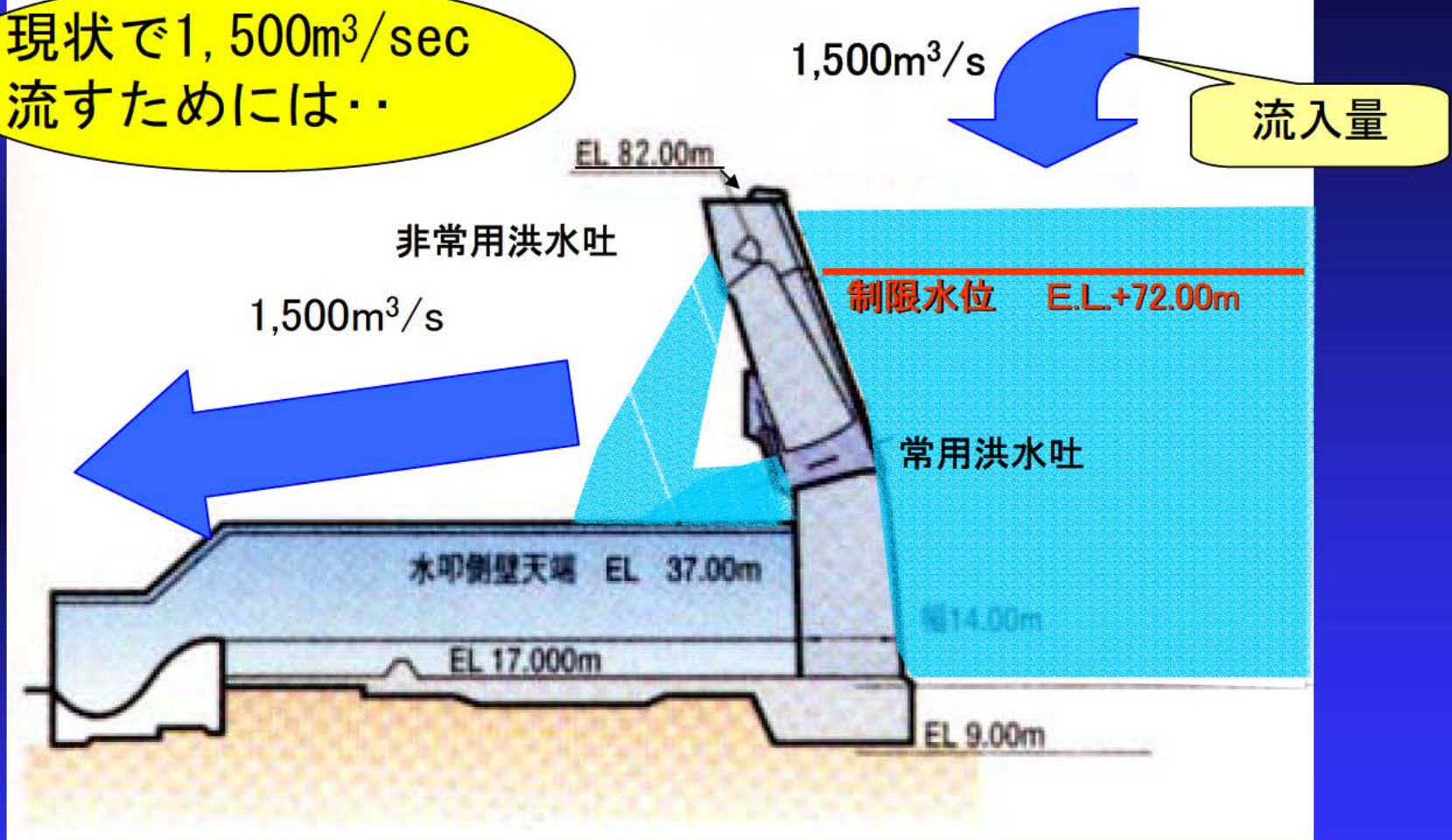


制限水位では900m<sup>3</sup>/secしか流れません。41



# 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強

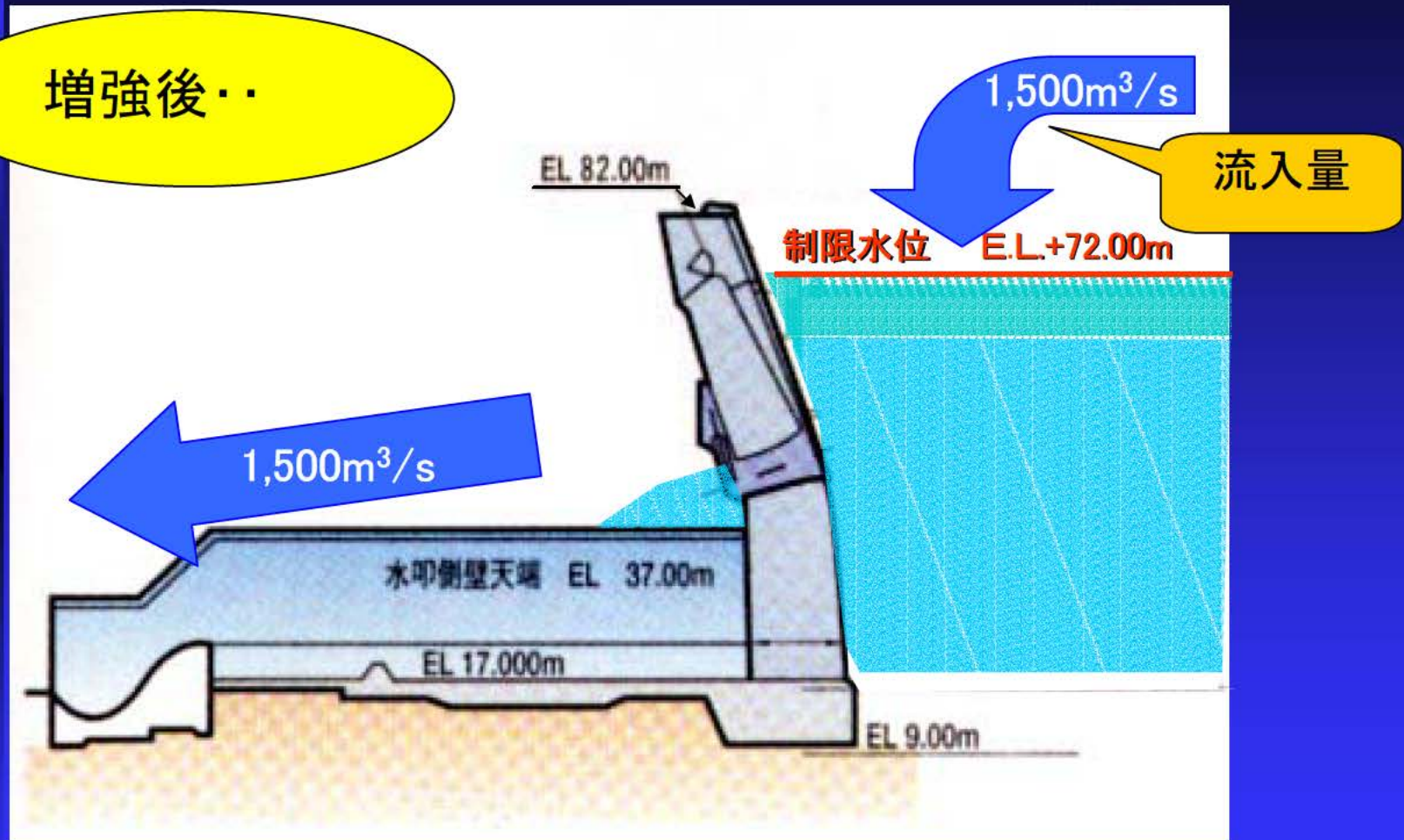
現状で $1,500\text{m}^3/\text{sec}$   
流すためには..



現状で $1,500\text{m}^3/\text{s}$ 流すには貯水位を満水位近くにしないと流せません。

# 天ヶ瀬ダムの放流能力の増強

増強後...



制限水位でも1,500m<sup>3</sup>/secを流すことができるように増強します。